

日本語教育インターンシップ（2単位）	上田 和子
--------------------	-------

科目目的	日本語教育の現場の授業体験を通じて、授業準備や教室運営、評価方法等における教師の役割を理解する。
到達目標	国内外での日本語教育実習に参加し、授業計画・教室運営をすることができる。
授業内容	日本語教育現場に「日本語教育インターン」として赴き、日本語教員がどのように授業運営を行い、学習者を支援しているかを学ぶ。またそのために実習前準備を行う。「準備⇒実践⇒評価」のサイクルを経験することで実践力を身につける。
授業計画	<p>主題：日本語教育実習の実践</p> <p>I. 学内授業等</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス（4月）：インターンシップ（実習）概要と手続</li> <li>実習先の選定（4月）</li> <li>学内の授業（週1コマ）：国内、国外参加者合同で行う</li> <li>日本語学校見学（2～3名ずつ）</li> </ol> <p>II. 学外実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内実習（7月～9月）とその準備（5月～8月） <ol style="list-style-type: none"> <li>①実習受入校の選択</li> <li>②実習費（臨時学費）納入</li> <li>③実習校との打ち合わせ（日程調整など）</li> <li>④担当授業の決定</li> <li>⑤教材研究</li> <li>⑥教案の作成</li> <li>⑦教案の添削</li> <li>⑧模擬授業</li> <li>⑧実習（3日～5日間）</li> <li>⑨報告書の作成</li> <li>⑩実習先からの「評価」受取（9月）⇒ ⑪実習の終了</li> </ol> </li> <li>海外実習（8月）とその準備（5月～8月） <ol style="list-style-type: none"> <li>①パスポート取得（⇒渡航手続きのため）</li> <li>②実習費（臨時学費）納入</li> <li>③実習校との連絡開始</li> <li>④担当授業の決定</li> <li>⑤教材研究</li> <li>⑥教案の作成</li> <li>⑦教案の添削（実習校担当者と連絡）</li> <li>⑧模擬授業</li> <li>⑨教案改訂および教具準備</li> <li>⑩渡航（韓国へ）</li> <li>⑪実習（5泊6日）⇒帰国</li> <li>⑫実習報告書の作成</li> <li>⑬実習先からの「評価」受取（9月）⇒フィードバック、⑭実習の終了</li> </ol> </li> </ol>
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ガイダンスに従って実習先（①国内日本語学校②海外の本学協定大学③その他）を決める。</li> <li>・実施時期は夏季休暇中である。国内、海外の両方で実習を行うこともできる。</li> <li>・事前に担当者と教案作成や模擬授業などの準備を行い、学外実習終了後に報告書を作成提出する。</li> <li>・かならず模擬授業を実施しなければならない。</li> </ul>
準備学習（予習・復習等）	<p>【予習】担当する授業内容によって教材研究をすること。資料は適宜紹介する。</p> <p>【復習】模擬授業などで気づいたことを、実践に生かせるように記録すること。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート[作品含む] (50点)</li> <li>・平常点等(50点) 平常点等配点内訳：事前準備への協力20点、実習への参加度30点</li> </ul>

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	実習受け入れ先担当教員と連絡を取り、実習中の課題達成について実習終了後に振り返りの時間を設けて、フィードバックする
地域との連携	受入校との密接な連携に基づいて実習を行う。
担当教員への連絡方法	授業で通知する。
受講上の注意	<p>「日本語教育学入門」「日本語教授法」等、関連科目をすでに履修していることが望ましい。インターンシップは外部実習なので、授業担当者だけでなく受入校とも連絡を密にとらなければならない。必ず協力すること。また諸経費が発生するので留意すること。詳しくはガイダンスで紹介する。</p> <p>【注意】インターン(実習生)は、学外実習に際し所定の規則を守り、武庫川女子大学生の代表として学外機関に赴く自覚を持っていること。</p>
卒業(修了)認定・学位授与の方針との関連	<p>2. 技能・表現 2-1 日本語のしくみ・特性を深く理解し、自らの思考を他者に対して的確に発信する能力を備えている。</p> <p>4. 態度・志向性 4-1 日常生活の中で大学での学修の価値を認識し、常に学問的態度を保っている。</p> <p>4. 態度・志向性 4-2 広範で体系的知識と豊かな感性、倫理観に基づき、自らの役割を自覚しながら使命を全うしようとする強い意欲と意志を持っている。</p>
実務経験と授業との関連	担当者の国内外における日本語教育現場の実務経験を生かし、授業を設計し運営する。

シラバスID : 111100940